“ふるさと”と言いたくなる夕陽のまち

第2期　西伊豆町まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和3年4月

【　目　次　】

【第１部　西伊豆町人口ビジョン】
第１章　人口動向と推計人口　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
１　人口・世帯数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　人口ピラミッドの推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
３　人口動態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
自然動態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
社会動態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
転入・転出の状況①（性別年代別転入・転出者数）　・・・・・・・・・　６
転入・転出の状況②（移動前後の住所地別転入・転出者数）　・・・・　７
合計特殊出生率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
産業分類別就業者数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
４　人口の変化が将来に与える影響　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
５　人口の将来展望　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
目指すべき将来の方向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
人口の長期見通し　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
（参考１）地区別年齢３区分別人口の推移　・・・・・・・・・・・・・・　１３
（参考２）中学生・高校生の意向調査結果　・・・・・・・・・・・・・・　１４

【第２部　西伊豆町総合戦略】
第１章　総合戦略の策定にあたって
１　策定の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
２　総合戦略の位置づけ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
３　計画期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８
４　進行管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８
５　参考にする視点（ＳＤＧｓ）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９
第２章　第１期総合戦略の検証　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
１　重要業績評価指標（ＫＰＩ）の達成状況　・・・・・・・・・・・・・・・　３０
２　前期に策定した人口ビジョンにおける将来の人口目標の状況　・・・・　３５
第３章　第２期総合戦略　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６
１　国の総合戦略について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６
２　静岡県の総合戦略について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８
３　西伊豆町総合戦略について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９
基本目標と具体的な施策等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０

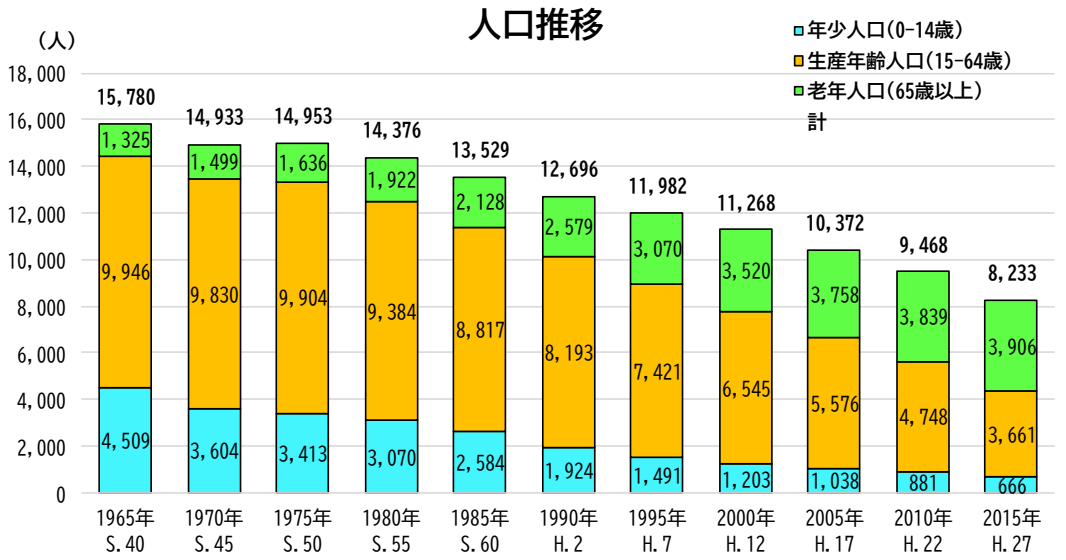
第1部　西伊豆町人口ビジョン

第１章　人口動向と推計人口

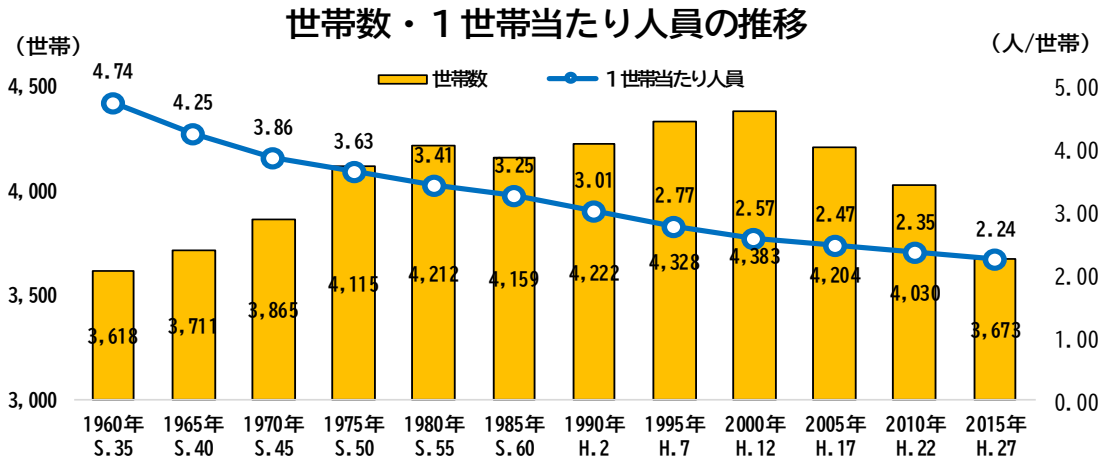
１　人口・世帯数の推移

当町の人口は、戦後の 18,000 人台をピークに減少を続け、2010（平成 22）年の国勢調査では 9,469 人、2015（平成 27）年は 8,234 人と減少が続いています。国勢調査の結果を見ると 0 歳から 14 歳までの年少人口と 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口が減少、65 歳以上の老年人口の増加が続いており、2015（平成 27）年には老年人口が３区分の中で最も多くなっています。

こうした中、世帯数の推移は、人口減少が進む割には大きな減少は見られません。ここからは、単身世帯や比較的少人数で構成された世帯など、いわゆる核家族化が進んでいることがうかがえます。



（出典：国勢調査）



（出典：国勢調査）

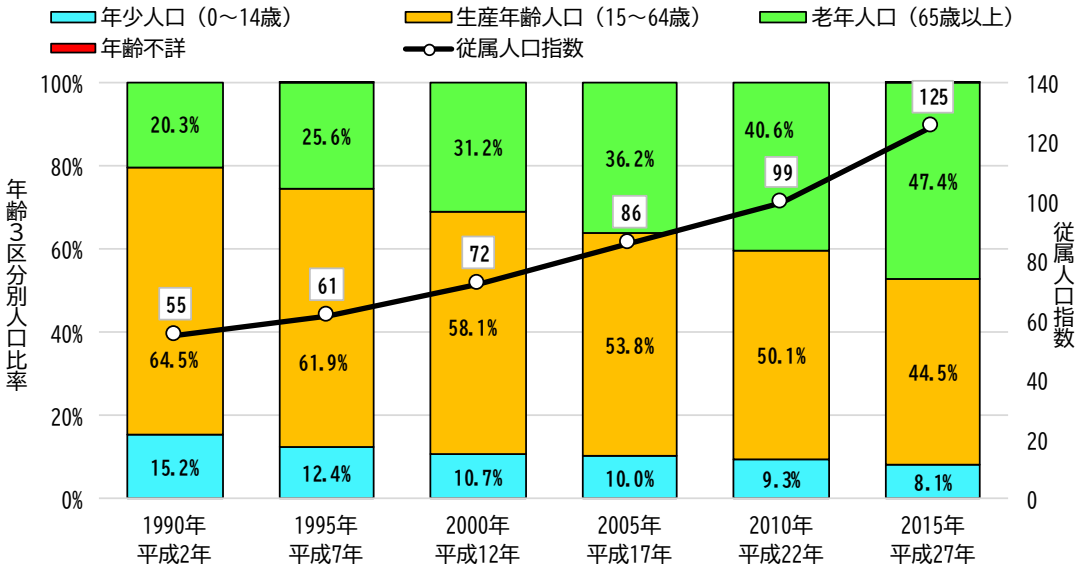
年齢区分別人口の推移

（単位：人）

			1990年 平成２年	1995年 平成７年	2000年 平成12年	2005年 平成17年	2010年 平成22年	2015年 平成27年
人口	年少人口	0～4歳	467	377	358	319	229	142
		5～9歳	625	485	376	360	313	220
		10～14歳	832	629	469	359	339	304
		計	1,924	1,491	1,203	1,038	881	666
	生産年齢人口	15～19歳	748	532	455	311	252	223
		20～24歳	344	396	313	224	199	146
		25～29歳	465	431	489	332	227	174
		30～34歳	534	503	464	506	343	215
		35～39歳	823	537	488	449	487	318
		40～44歳	1,070	828	533	481	443	445
		45～49歳	974	1,109	806	528	480	432
		50～64歳	3,235	3,085	2,997	2,745	2,317	1,708
		計	8,193	7,421	6,545	5,576	4,748	3,661
	老年人口	65～74歳	1,541	1,866	1,965	1,871	1,761	1,763
		75歳以上	1,038	1,204	1,555	1,887	2,078	2,143
		計	2,579	3,070	3,520	3,758	3,839	3,906
	年齢不詳		0	1	0	0	1	1
	総人口		12,696	11,983	11,268	10,372	9,469	8,234
構成比	年少人口	0～14歳	15.2%	12.4%	10.7%	10.0%	9.3%	8.1%
	生産年齢人口	15～64歳	64.5%	61.9%	58.1%	53.8%	50.1%	44.5%
	老年人口	65歳以上	20.3%	25.6%	31.2%	36.2%	40.5%	47.4%

（出典：国勢調査）

年齢３区分別人口構造と従属人口指数※1の推移



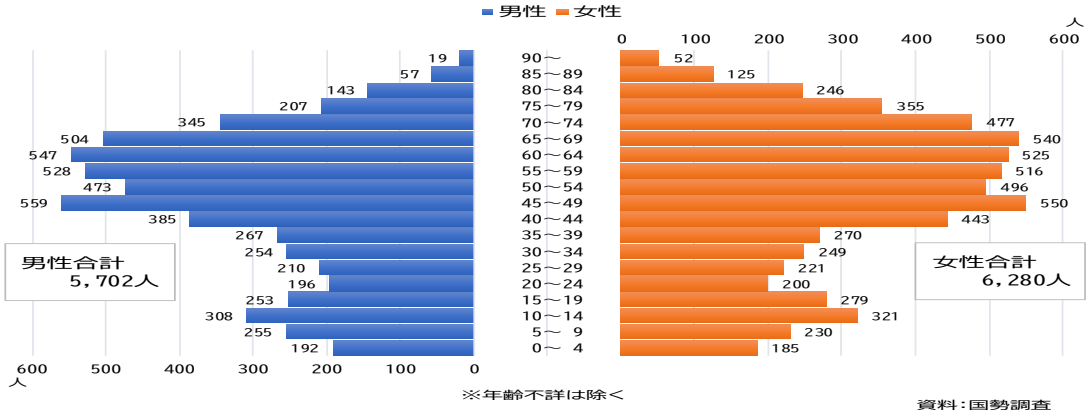
（出典：国勢調査）

※1　従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64 歳）に対する年少人口（0～14 歳）、老年人口（65 歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口 100 人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すもの。

2　人口ピラミッドの推移

直近の国勢調査である 2015（平成 27）年の 20 年前となる 1995（平成７）年では、40 歳代、50 歳代、60 歳代の人口が多く、20 歳代及び 70 歳以上が少ない「星形」に近い形状でしたが、2015（平成 27）年では老年人口が多く、少子・高齢化を迎えた「つぼ型」へと変化しています。今後もその傾向はより強くなると予想され、25 年後の 2040（令和 22）年では、人口減少が進行する中、さらに顕著な少子・高齢化が見られると推計されています。

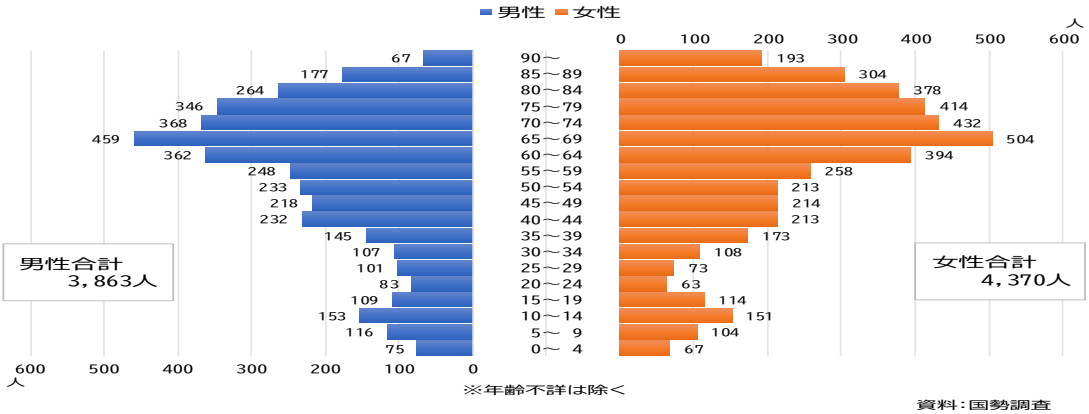
1995年　人口ピラミッド（平成7年国勢調査）



※年齢不詳は除く

資料：国勢調査

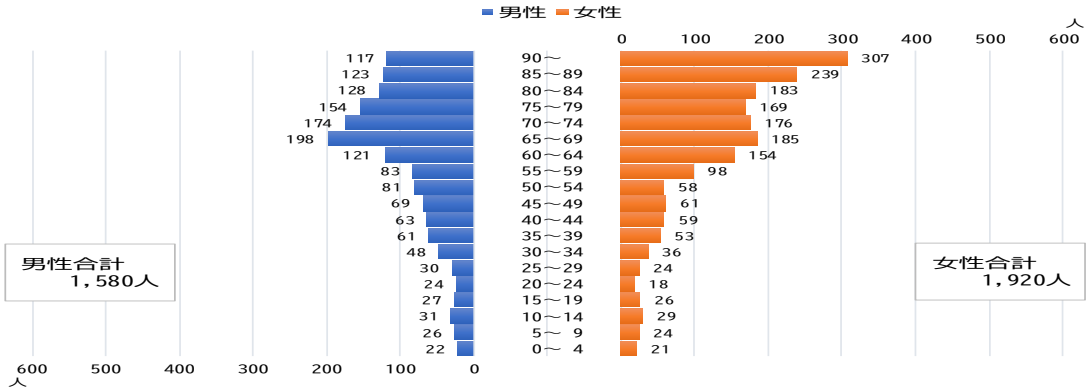
2015年　人口ピラミッド（平成27年国勢調査）



※年齢不詳は除く

資料：国勢調査

2040年　人口ピラミッド（社人研推計）

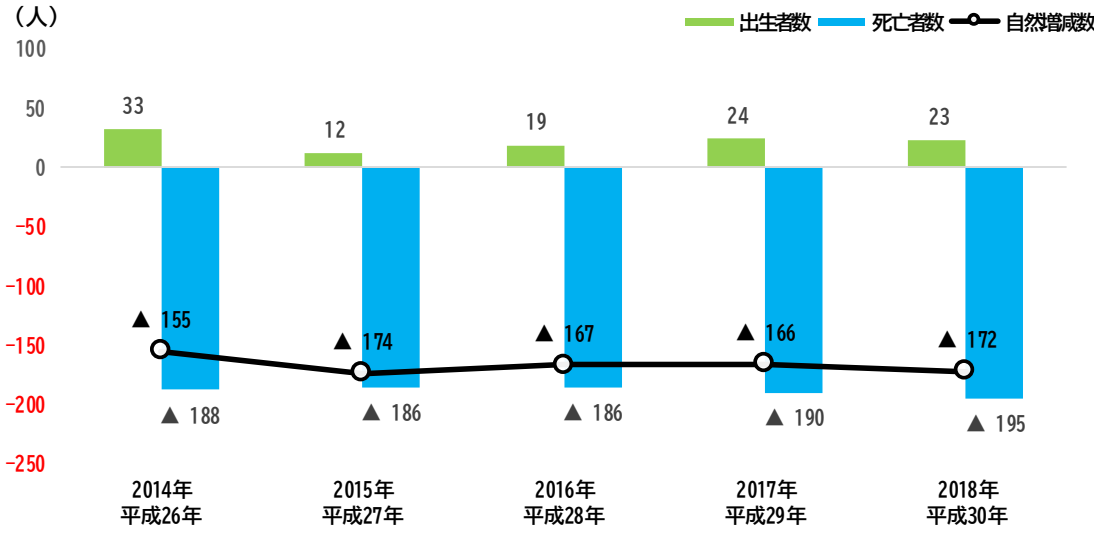


資料：国立社会保障・人口問題研究所公表値

3　人口動態

●自然動態

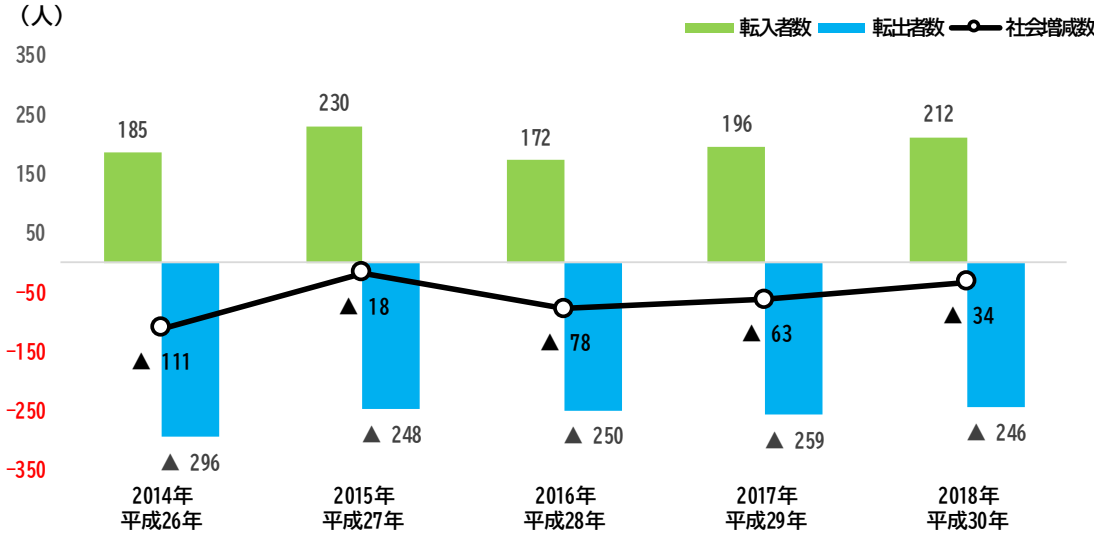
当町における出生者数と死亡者数を比較してみると、長らく死亡者数が出生者数を大きく上回る自然減の状態が続いています。出生者数が伸び悩む要因としては、多くの若者が県内外に流出し、若い女性の数そのものが減少していることと、非婚化・晩婚化の進行や経済的な理由、子育てに対する負担感の増大などによると推測されます。



（出典：住民基本台帳）

●社会動態

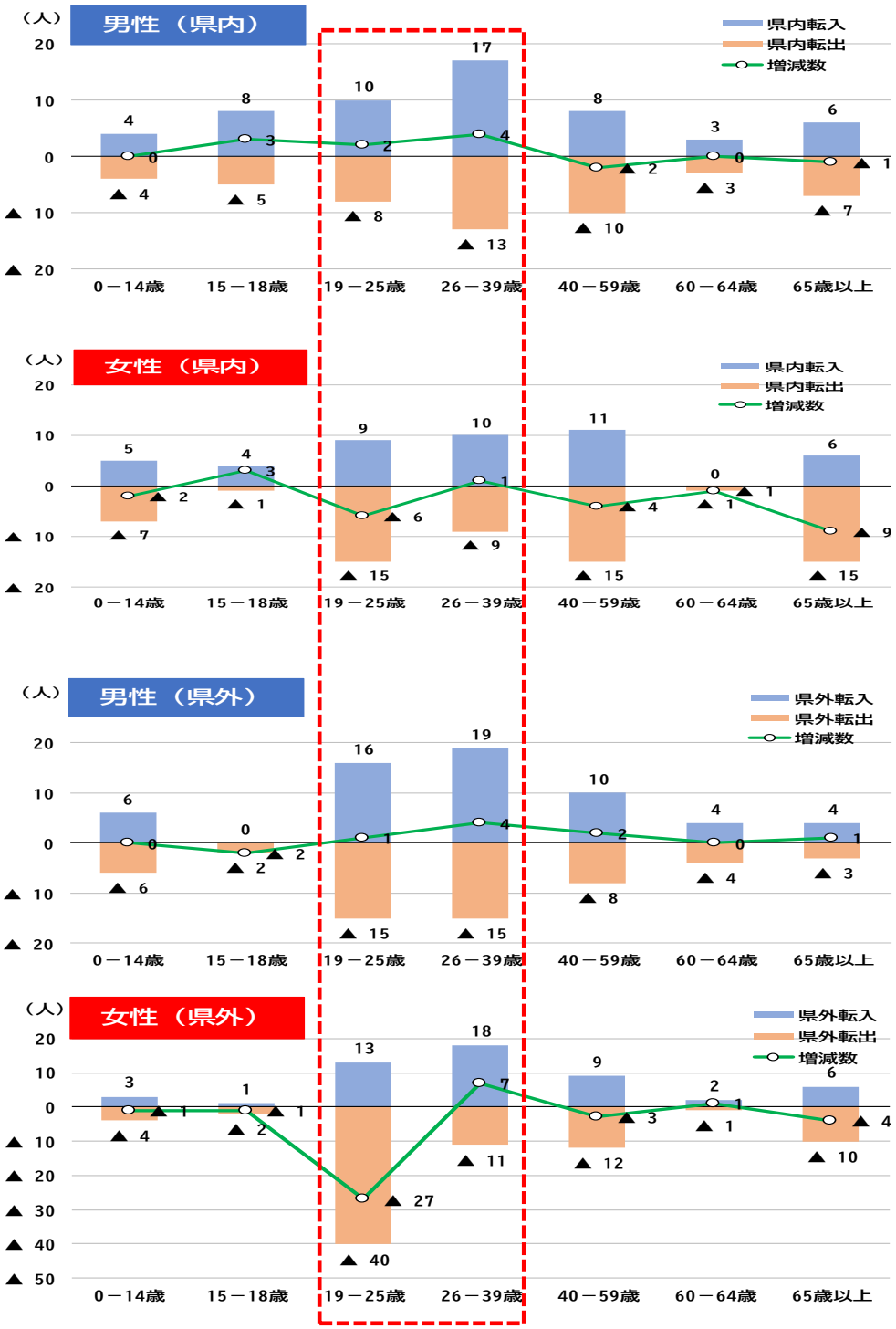
当町の県内外との間における人口動態は、転出者数が転入者数を上回る転出超過（社会減）が続いています。人口移動の状況を年齢階層別に見ると、県外への転出超過のほとんどを 19 歳から 39 歳の年齢が占めており、高等学校や大学等を卒業して進学、就職する際に県外へ出る者が多くなっていると考えられます。



（出典：住民基本台帳）

●転入・転出の状況①（性別年代別転入・転出者数）

年齢別の男女、移動前後の県内外別転入・転出者の状況を見ると、転入、転出共に 19 歳から 25 歳が一番多く、次いで 26 歳から 39 歳の移動が多くなっています。これは、就職や転勤などによるものと推測されます。また、性別では女性の転出が多く、特に県外への転出が多くなっています。



（出典：住民基本台帳）

●転入・転出の状況②（移動前後の住所地別転入・転出者数）

移動前後の住所地地方区分別では、静岡県内の移動を含む中部地方が最も多く、次いで、東京都を含む１都３県の東京圏が多くなっており、この２地域で移動の８割を占めています。

静岡県内の移動を市町別に見ると、松崎町との移動が最も多く、次いで沼津市との移動が多くなっています。

移動前後の住所地（地方区分別）

	北海道	東北	北関東	東京圏	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	計
転入（男）	0	0	14	27	64	4	0	0	1	5	115
転入（女）	0	1	10	22	51	3	0	0	1	9	97
転出（男）	0	▲ 1	▲ 3	▲ 34	▲ 56	▲ 2	0	0	▲ 2	▲ 5	▲ 103
転出（女）	0	▲ 1	0	▲ 52	▲ 67	▲ 3	0	0	0	▲ 20	▲ 143
転入－転出	0	▲ 1	21	▲ 37	▲ 8	2	0	0	0	▲ 11	▲ 34
移動前後の都道府県		青森県	茨城県	埼玉県	石川県	三重県			鹿児島県		
		宮城県	栃木県	千葉県	福井県	滋賀県			沖縄県		
		山形県	群馬県	東京都	山梨県	京都府					
				神奈川県	長野県	大阪府					
					愛知県	兵庫県					
					静岡県						

移動前後の住所地　上位３都道府県

	男				女			
転入先	１位	静岡県	56人	49%	１位	静岡県	45人	46%
	２位	東京都	14人	12%	２位	東京都	10人	10%
	３位	栃木県	10人	9%	３位	栃木県	7人	7%
	その他		35人	30%	その他		35人	37%
	合計		115人		合計		97人	

	男				女			
転出先	１位	静岡県	50人	49%	１位	静岡県	63人	44%
	２位	東京都	14人	14%	２位	東京都	19人	13%
	３位	神奈川県	10人	10%	２位	神奈川県	19人	13%
	その他		29人	27%	その他		42人	30%
	合計		103人		合計		143人	

県内からの移動前後の住所地　上位３市町

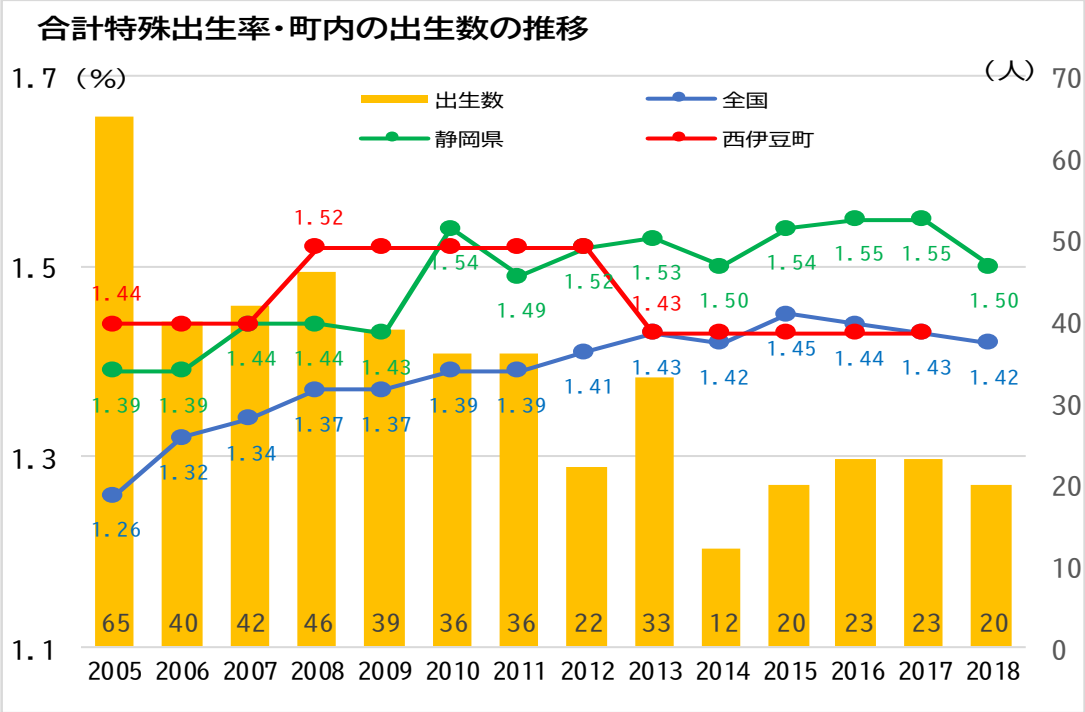
	男				女			
転入先	１位	沼津市	14人	25%	１位	松崎町	12人	27%
	１位	松崎町	14人	25%	２位	伊東市	6人	13%
	３位	下田市	4人	7%	３位	沼津市	4人	9%
					３位	三島市	4人	9%
	その他		24人	43%	その他		19人	42%
	合計		56人		合計		45人	

	男				女			
転出先	１位	沼津市	11人	22%	１位	松崎町	12人	19%
	２位	伊豆の国市	7人	14%	２位	伊豆の国市	9人	14%
	２位	松崎町	7人	14%	３位	伊豆市	7人	11%
	その他		25人	50%	その他		35人	56%
	合計		50人		合計		63人	

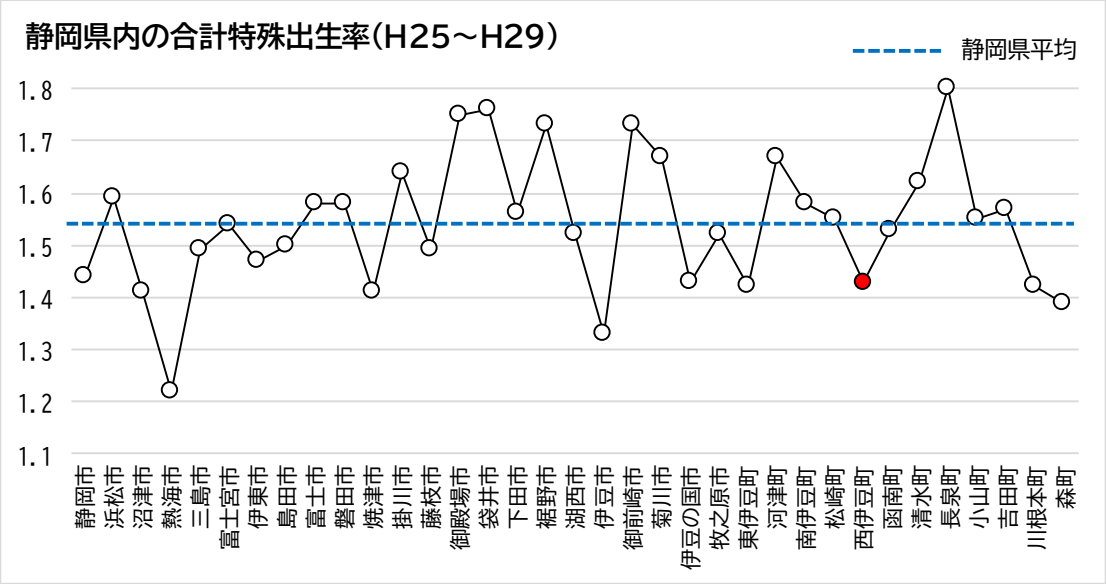
●合計特殊出生率及び出生数

西伊豆町の合計特殊出生率は、全国平均や静岡県平均を下回る水準で推移しており、県内では 35 市町中 27 位で、近年はやや下降の傾向にあります。

出生数は子育て世代の減少に伴い大きく減少しており、ここ３年の平均出生数（22 人）は 2005（平成 17）年の町村合併以降のピーク時と比較して、３分の１程度に落ち込んでいます。



（出典：厚生労働省「人口動態調査」・ＲＥＳＡＳ「地域経済分析ｼｽﾃﾑ」・健康福祉課調べ）

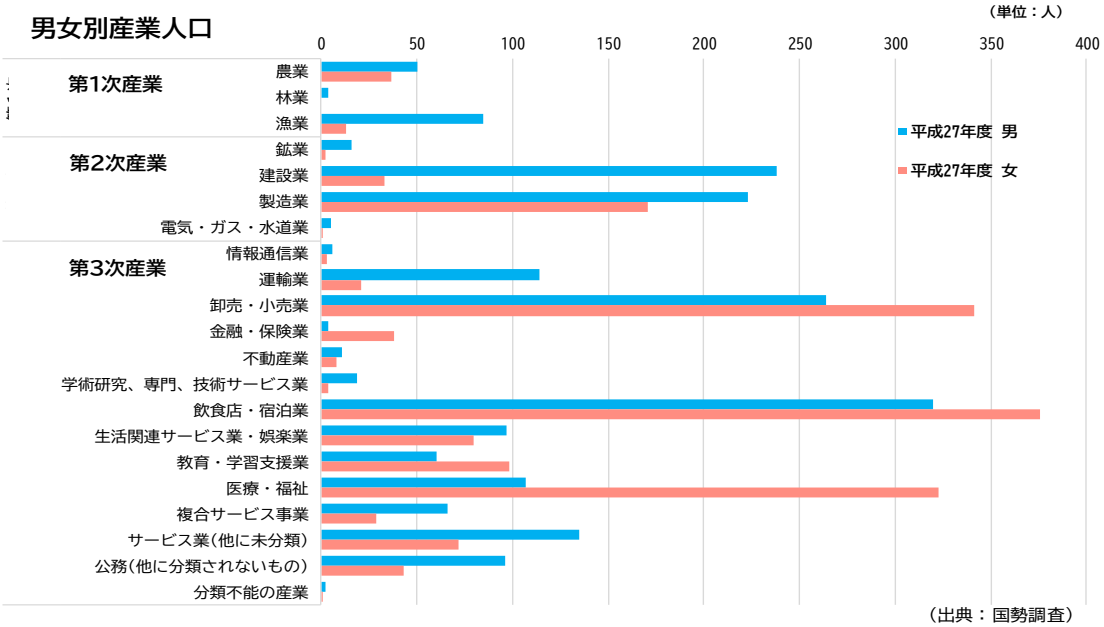


（出典：人口動態保健所・市区町村別統計）

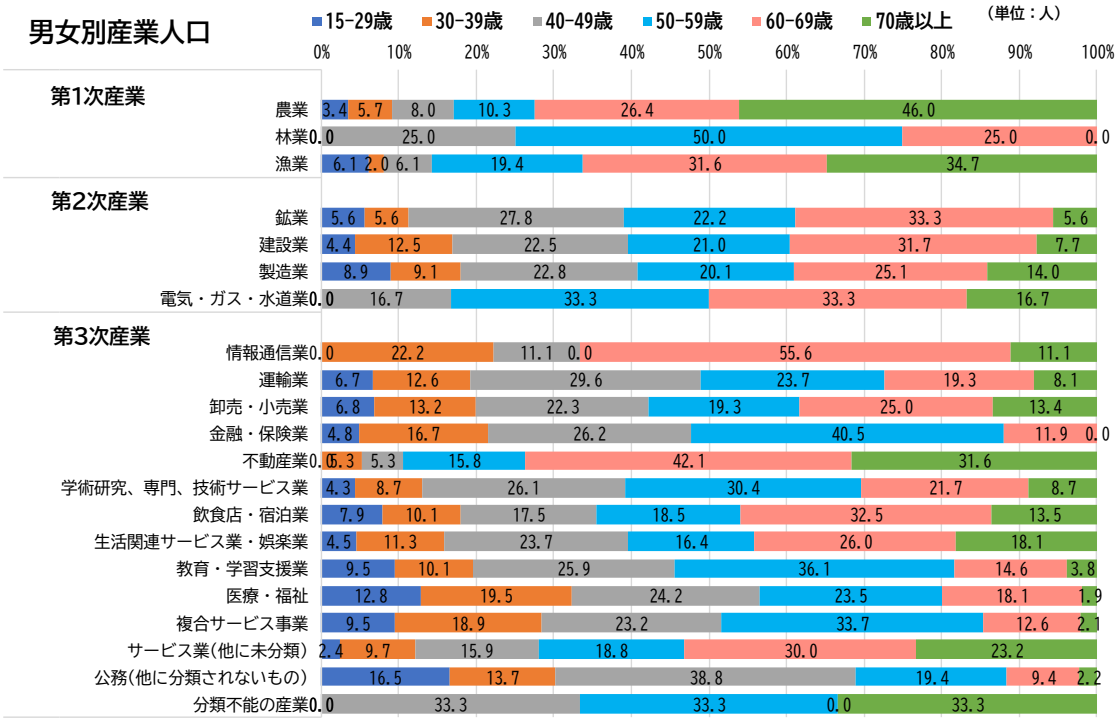
●西伊豆町の産業分類別就業者数

産業別就業人口は、時代の変化に伴う産業構造の変化や若者世代の減少による後継者不足などにより第１次産業は年々減少し、飲食店や宿泊業、卸売・小売業などのサービス業を含む第３次産業が本町の産業の中心となっています。

年齢階級別産業人口をみると、ほとんどの産業において、60 歳以上の就業者割合が 20%を超え、全体的に高齢化が進んでいます。就業者数が 50 人以上の産業の中では農業が 72.4%、漁業が 66.3%と高く、第１次産業の高齢化、担い手不足が表れています。



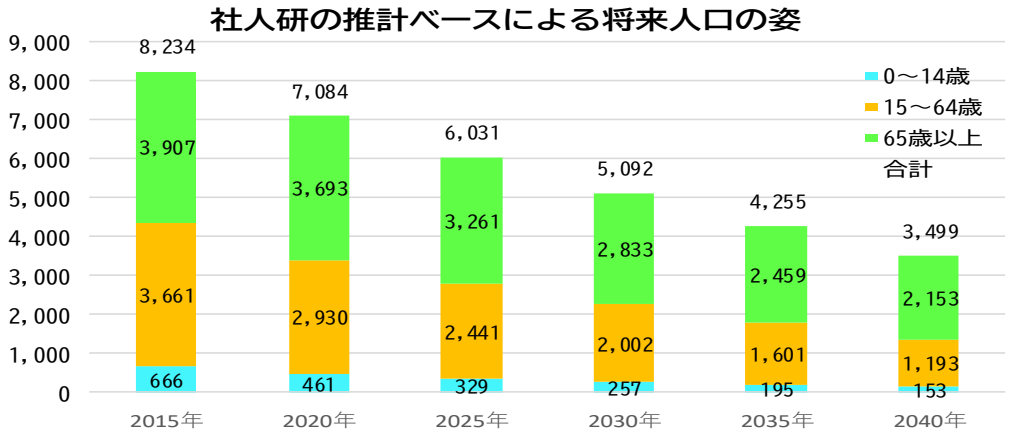
（出典：国勢調査）



（出典：国勢調査）

4　人口の変化が将来に与える影響

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の推測ベースによる将来人口を前提に、本町への影響について考察します。



（出典：国立社会保障・人口問題研究所）

○　少子高齢化の加速によって、本町の総人口が今後 25 年間で約 6 割減少することになった場合、人口減少が地域に与える影響は、以下のものが挙げられます。

仕事、産業への影響

・事業者の後継者問題が拡大
・将来の産業を担う若者の減少
・耕作放棄地や荒廃森林等の増加

子育て、教育への影響

・学校等の再編や縮小
・子育てサービスの縮小

医療、福祉、介護への影響

・医療費や介護費等、社会保障費が増加し、生産年齢層への負担が増加
・生産年齢人口の減少により、医療、福祉、介護等への就業者が不足

地域社会への影響

・空き家等の増加
・地域の担い手が不足し、コミュニティ活動の維持が困難
・防犯や災害救助に携わる人が減ることによる治安の悪化
・商店や商業施設が撤退することによる生活用品購入の場の減少
・道路や水道等のインフラ施設の維持管理レベルの低下

⇒　産業の衰退や地域の活力低下等、人口減少が地域にもたらす影響は大きく、こうした諸問題を解決するために、人口減少をいかに抑制していくかが重要となります。

５　人口の将来展望

●目指すべき将来の方向

人口減少社会に対して、町として何もせず、そのままのなりゆきに任せると、町の総人口は、2030（令和 12）年には 5,092 人、2040（令和 22）年には 3,499 人まで減少していくと社人研では推計しています。

今後、町として人口減少社会に対して、戦略・施策を実施し、人口構造の適正化を図ることで、人口減少幅の抑制につなげ、これまでの分析結果や前回策定の人口ビジョンとの乖離等、様々な状況を踏まえて、本町が目指すべき将来の方向性を以下のとおり設定します。

【合計特殊出生率】

人口規模を維持するために望まれる合計特殊出生率は、人口置換水準である 2.06 が必要ですが、本町では高校・大学を卒業する 10 代後半から 20 代前半の多くの若者が仕事を求めて県内外へ転出するため、緊急に雇用対策を実施したとしても、また、子育てしやすい環境づくり等の施策を実施したとしても、その効果は短期的に表れるものではなく、長期的な視点が必要であることから、2040 年の合計特殊出生率は前回策定の人口ビジョンから下方修正となりますが、現状維持を目指します。

【人口移動率】

人口移動率の均衡（転入・転出数が同数で移動（社会減）がゼロとなる）は、現状や今後の見通しからも厳しい状況にあります。合計特殊出生率と同様、人口移動率についても、長期的な視点を持ち、移住施策や交流人口拡大等の展開により、現在の移動率を徐々に抑制し、前回策定の人口ビジョンから下方修正となりますが、社会減が現状の２分の１となるよう目指します。

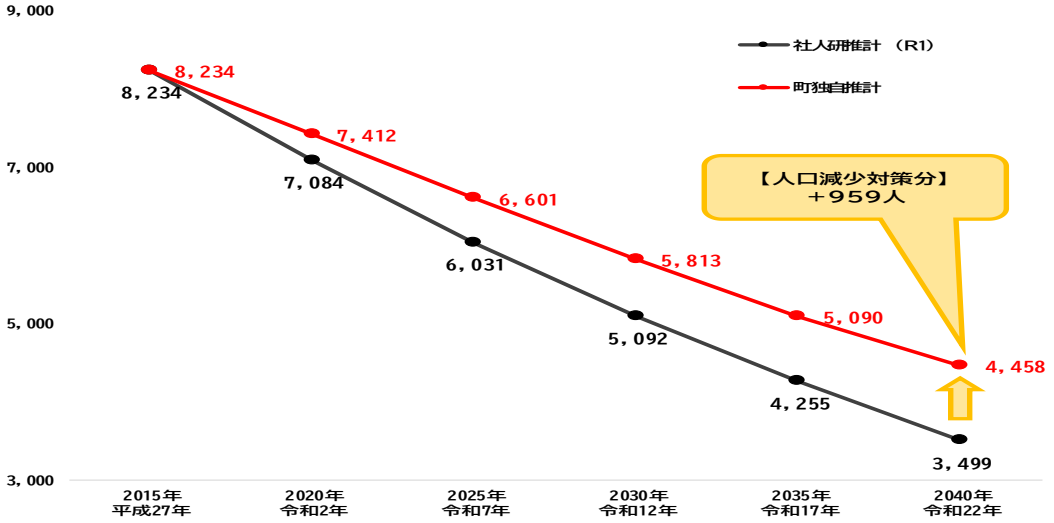
【転入人口(子育て世代等)】

今後、さらに加速化する少子・高齢化社会においても、本町の魅力や良さを損なわず、持続可能なまちづくりを進めるためには、子どもや子育て世代など若い世代の存在は不可欠です。このため、若い子ども子育て世代をターゲットとした魅力的なまちづくりを進めることで、転入人口の増を目指します。

●人口の長期見通し

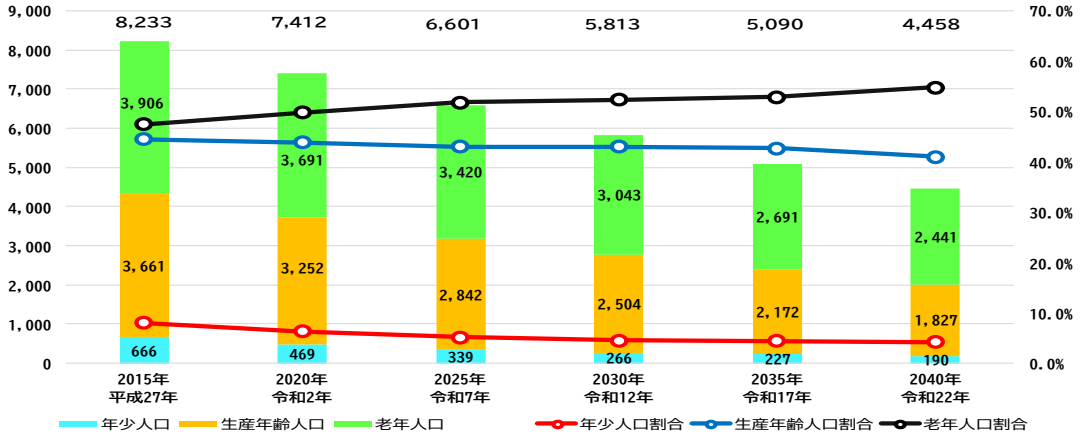
「目指すべき将来の方向」に基づき、合計特殊出生率の上昇、転出の抑制及び転入の促進等を図ることにより、2040（令和 22）年で 4,458 人の人口確保を目指します。

西伊豆町の人口の長期見通し



（出典：平成27年国勢調査／町独自推計／国立社会保障・人口問題研究所）

西伊豆町における年齢3区分人口の推移・見通し（将来目標人口）



※年齢不詳は除く

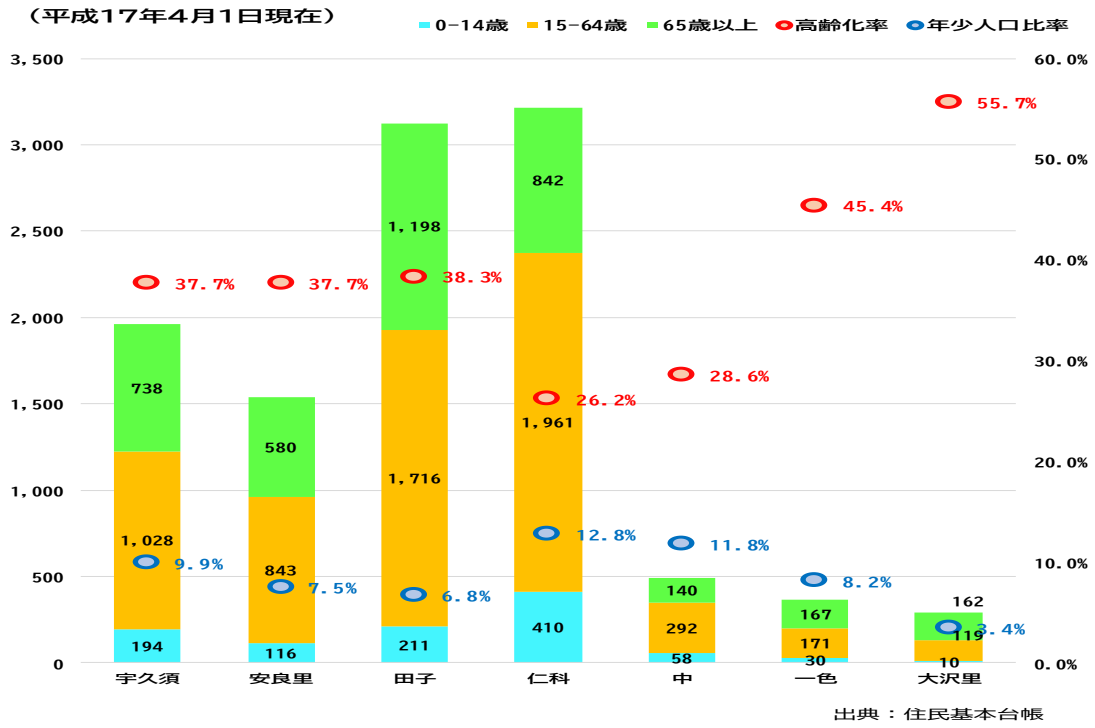
（出典：（2015）国勢調査／（2020～）西伊豆町独自推計

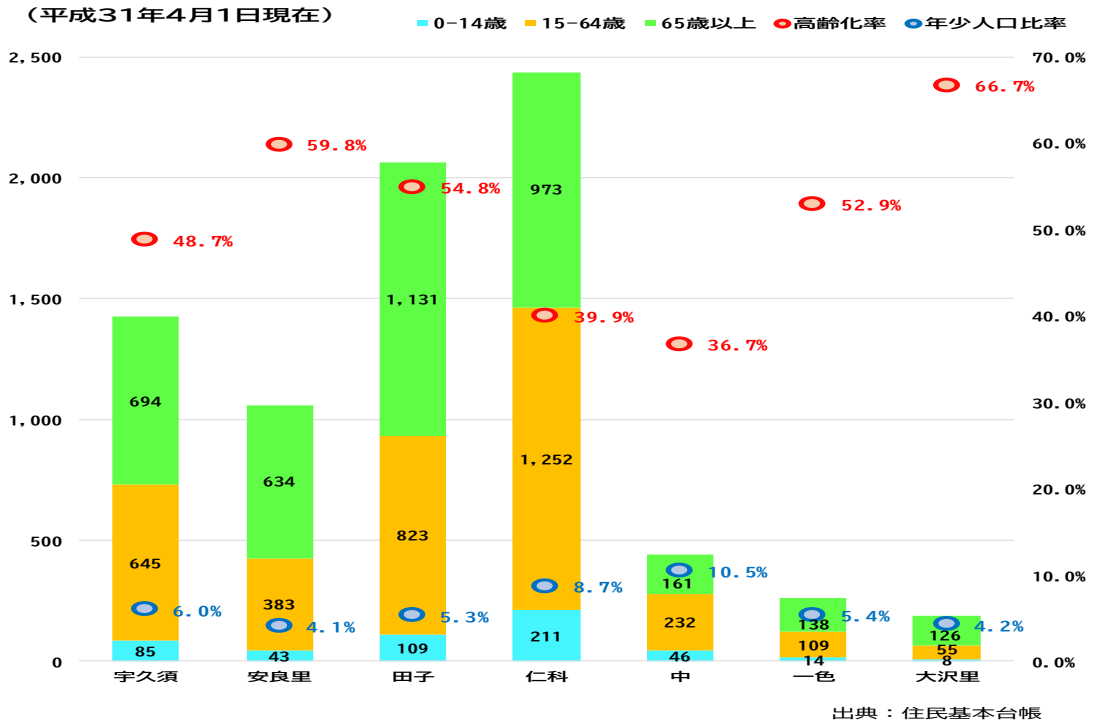
【将来目標人口】

【第２期総合戦略】（始期）２０２１（令和３）年	▶	【第２期総合戦略】（終期）２０２４（令和６）年	▶	【長　期】２０４０（令和２２）年
7,254人		6,764人		4,458人

（参考1）

地区別年齢３区分別人口の推移





（参考2）

中学生・高校生アンケート

調査結果報告書

（全体）

令和２年７月

西伊豆町まちづくり課

Ⅰ　調査の概要

このアンケートは、当町で現在取り組んでいる「持続可能な社会の構築を目指したＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の今後の事業展開の基礎資料とすることを主な目的として実施しました。

なお、各種ＥＳＤ事業などの効果の検証や、学生の意識傾向の経年比較等を行うため、今後も継続して調査を行います。

〇調査の実施概要

対　　象	町内の中学生及び松崎高校生（全学年）３８０人
配布・回収方法	学校を通じて配布、回収
調査期間	令和２年６月 29 日～７月９日
回 収 数	３７４票

〇本報告書の集計・表記方法に関する留意点

・比較は、回答数ではなく「回答率」で行っています。そのため、「多い・少ない」ではなく、「高い・低い」と表記しています。

・集計結果は、小数点第２位を四捨五入し、小数点第１位までを百分率（%）で表示しています。そのため、%を合計しても 100.0%にならないことがあります。

・「その他」に記載のあった内容については、同じ内容のものについてはまとめてあります。また、記述事項を一部整理・要約して掲載しています。

Ⅱ　回答者の属性

対象者 ： 合計380人(回答者374人･回答率98.4%)　①+②

西伊豆中学校	１０６人	（回答者１０４人・回答率９８．１％）	
１年生	３５人	（　〃　３５人）	
２年生	２９人	（　〃　２８人）	
３年生	４２人	（　〃　４１人）	
賀茂中学校	４６人	（回答者　４４人・回答率９５．７％）	
１年生	１１人	（　〃　１１人）	
２年生	９人	（　〃　９人）	
３年生	２６人	（　〃　２４人）	
中学生計	１５２人	（回答者１４８人・回答率９７．４％）	①
松崎高等学校	２２８人	（回答者２２６人・回答率９９．１％）	②
１年生	７６人	（　〃　７４人）	
２年生	７０人	（　〃　７０人）	
３年生	８２人	（　〃　８２人）	

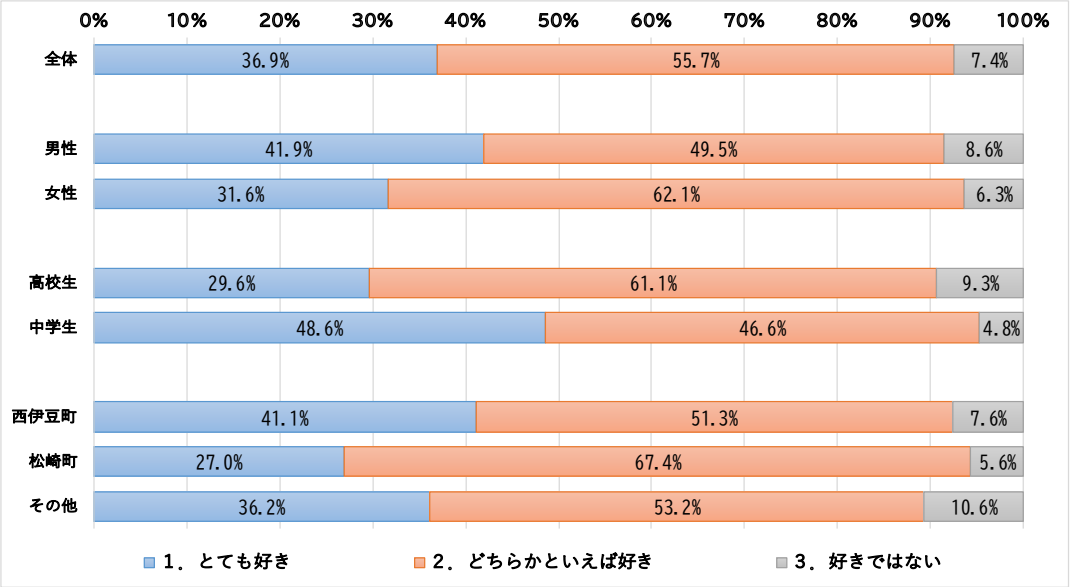
⇓

うち西伊豆町	９０人
松崎町	８９人
その他	４７人

性 別 ： 男性 198人(構成比53.0%)
女性 174人(　〃　46.5%)
不明　2人(　〃　0.5%)
計　374人

Ⅲ　設問別調査結果

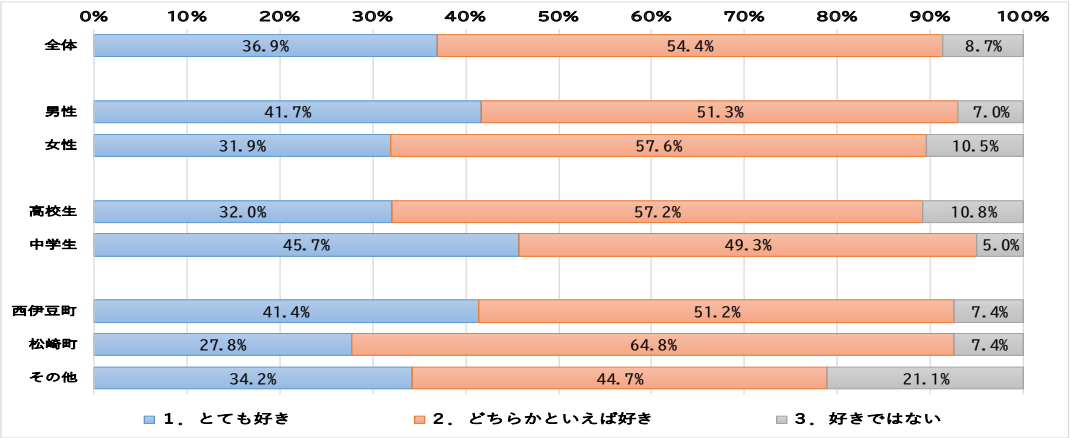
【問１】地元が好きですか？



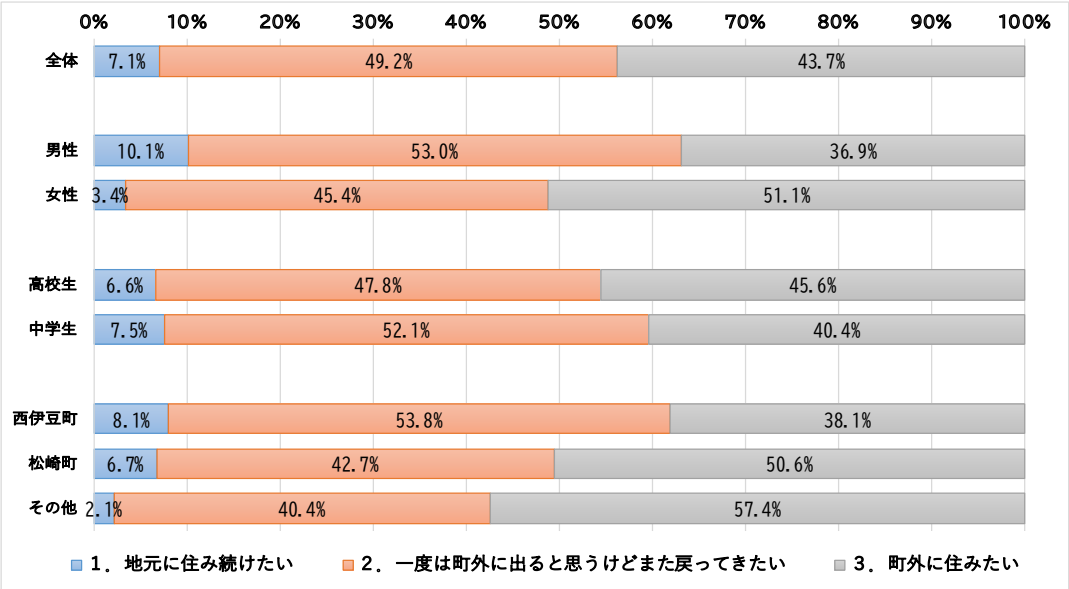
前年度と大きく変わりはない。

全体でも 90%を超える生徒が地元を好きと回答しており、中学生に限定すると 95%が好きと回答している。

【参考:令和元年度調査結果】

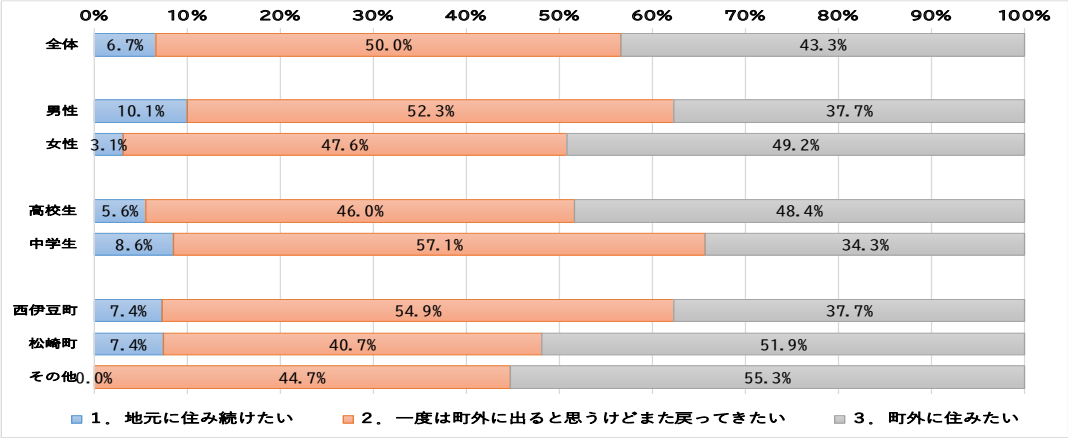


【問２】これからも地元に住み続けたいと思いますか？

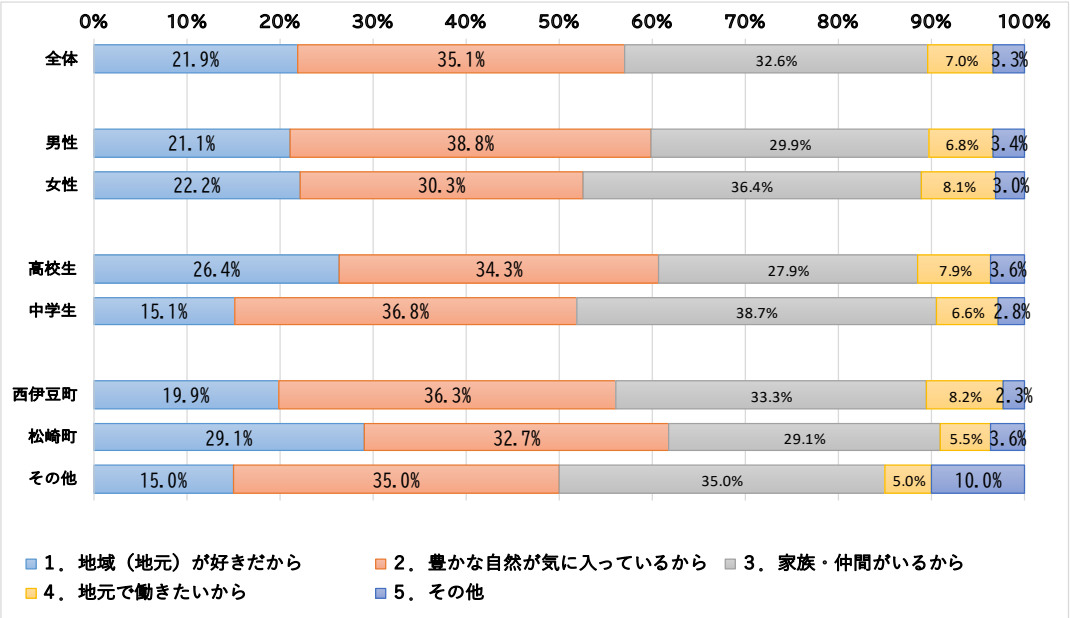


前年度と大きく変わりはなく、50％を超える生徒が、地元に住み続けたい又は戻ってきたいと回答しており、特に男性は、60％を超える生徒が地元に住み続けたい又は戻ってきたいと回答している。

【参考：令和元年度調査結果】



【問３】問２で「１．地元に住み続けたい」「２．一度は町外に出ると思うけどまた戻ってきたい」のどちらかを選んだ理由（複数選択あり）

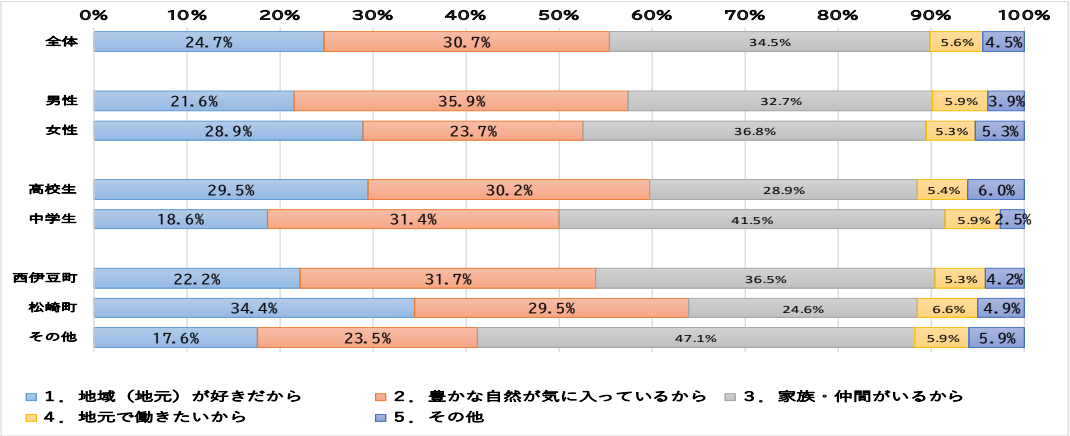


前年度と大きく変わりはなく、全体を見ても「豊かな自然」や「家族・仲間」を理由としている回答が高くなっている。

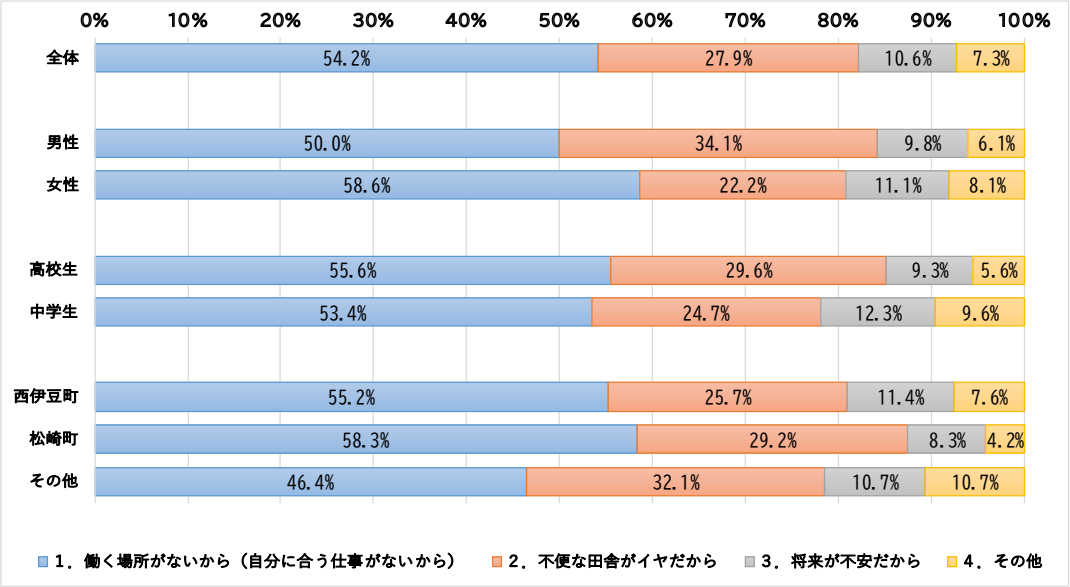
≪その他の意見≫

・父の仕事を継ぎたいから　　・祭りなどの行事に参加したいから
・一人暮らしが不安だから　　・年寄りになったら静かにくらしたいから
・静かだから　　・人がたくさんいる場所はあまり好きじゃないから
・都会の空気があまり好きではないから（たまに行く分にはアリ）

【参考:令和元年度調査結果】



【問４】問２で「３．町外に住みたい」を選んだ理由（複数選択あり）

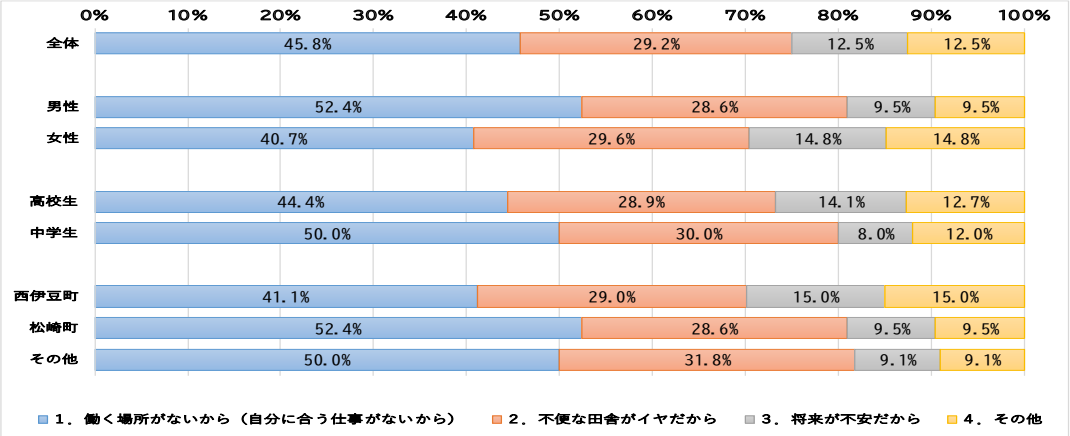


前年度と大きく変わりはなく、50%超える生徒が「働く場所がない」ことを１番の理由として挙げており、次いで「不便」が挙がり、この２つが大半を占めている。特に、女性は「働く場所がない」を理由に挙げる回答が大幅に高くなっている。

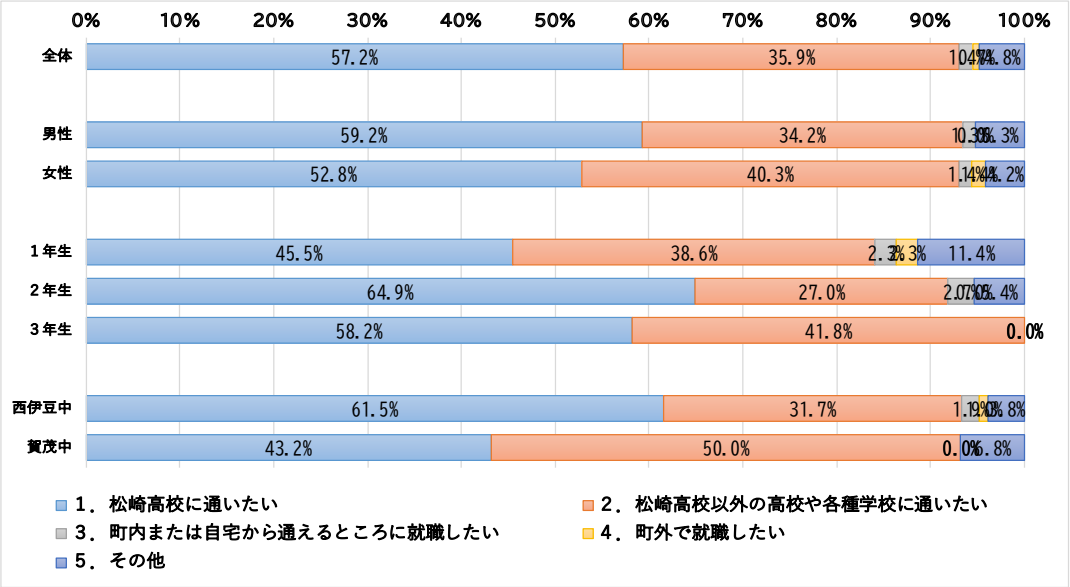
≪その他の意見≫

・夢を叶えたいから
・津波が怖いから
・都会へ出ることも大切
・少し栄えた田舎がいいから
・ショッピングモールなどがないから
・町外に出てやりたいことがあるから
・やりたいことはここではできないから
・休日の過ごす方法がないから
・自衛隊に受かり、家族が出来たら駐屯地に近いところに住むと思うから

【参考：令和元年度調査結果】



【問５】卒業後の進路について〈中学生〉（複数選択あり）

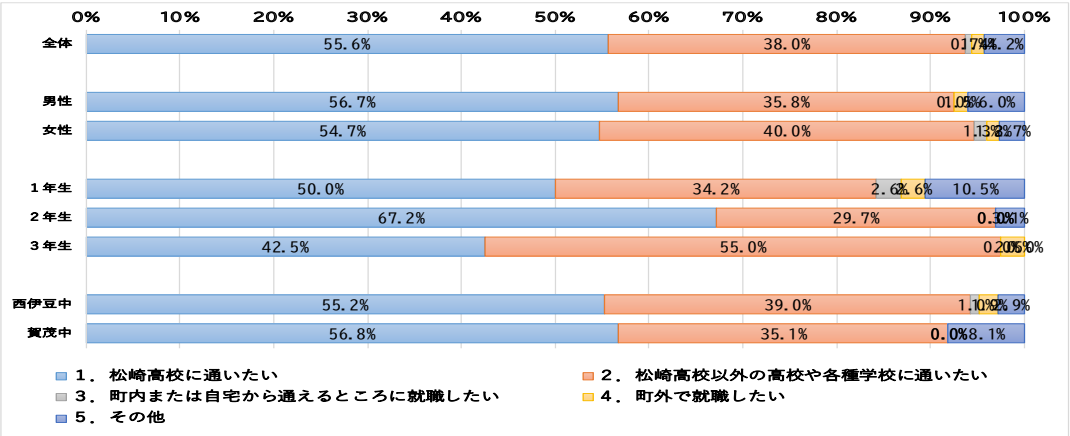


学年によりバラつきはあるものの、半数以上の生徒が松崎高校への進学を考えている。

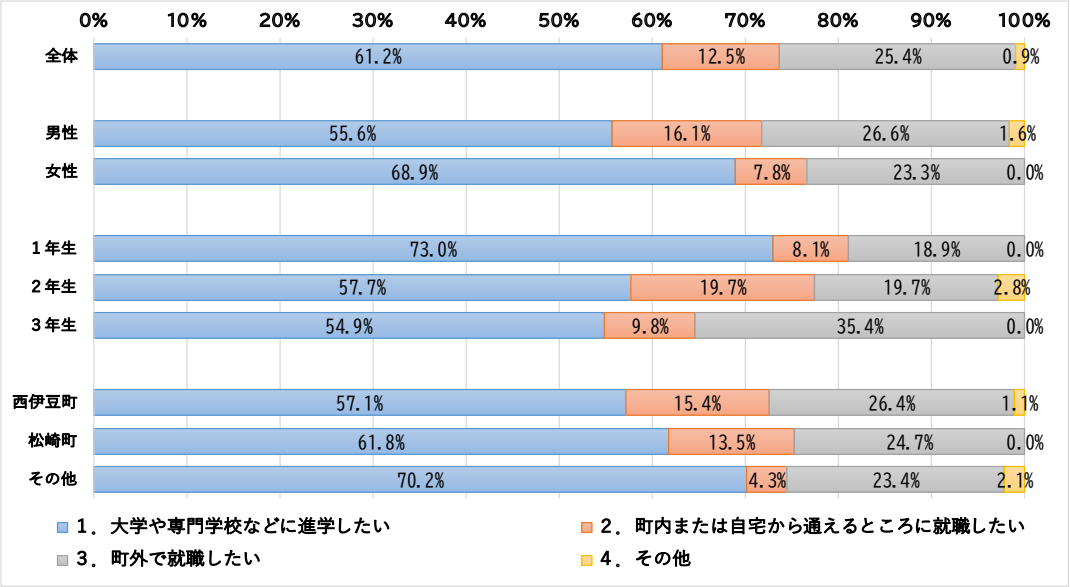
≪その他の意見≫

・サッカーの名門校に行きたい

【参考：令和元年度調査結果】

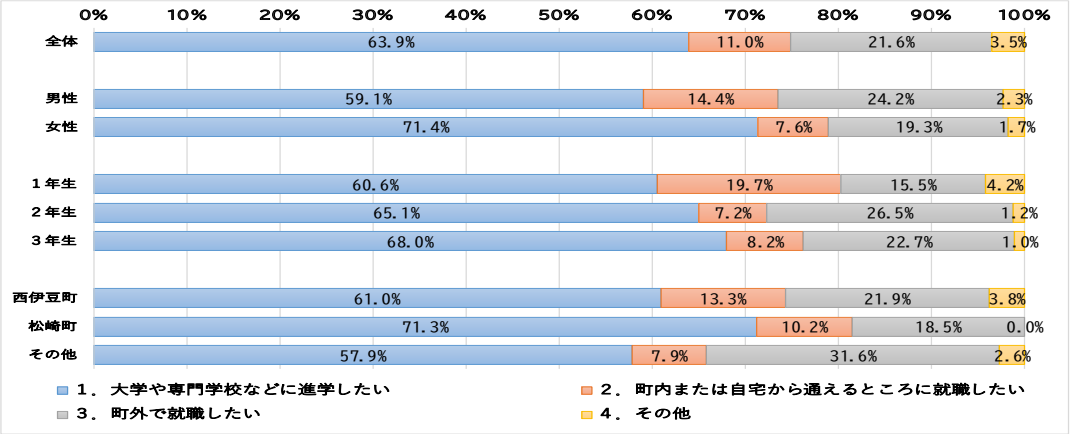


【問５】卒業後の進路について〈高校生〉（複数選択あり）

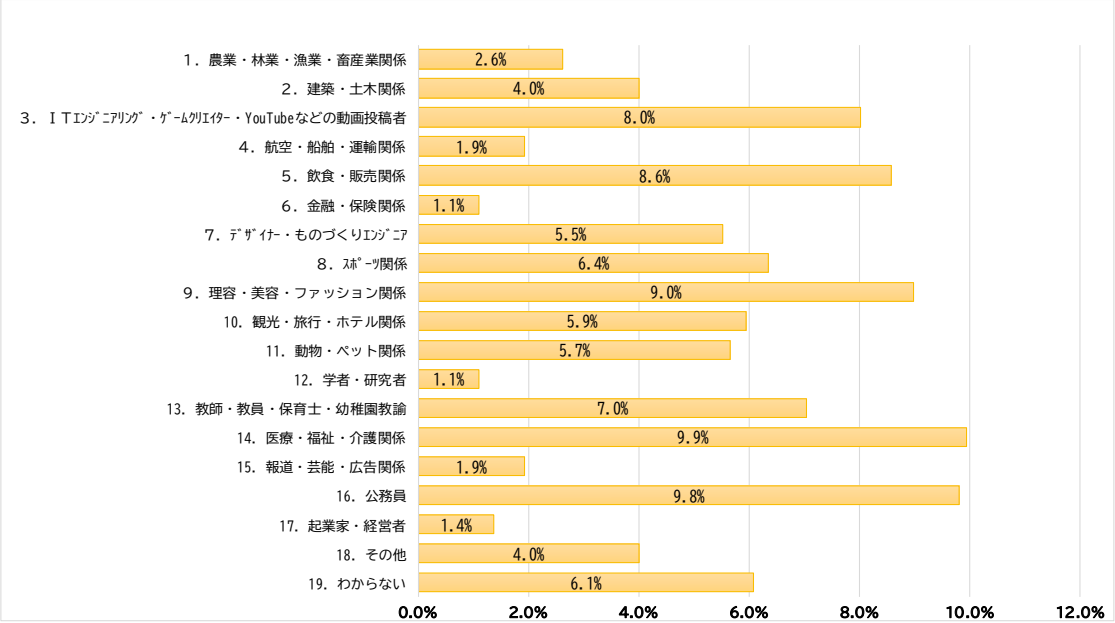


60%を超える生徒が進学を考えており、町外への就職希望を含めると 86%の生徒が何らかの形で町外に出ることを考えている。性別では女性の進学志向が強い。

【参考：令和元年度調査結果】



【問６】将来の仕事について（複数選択あり）

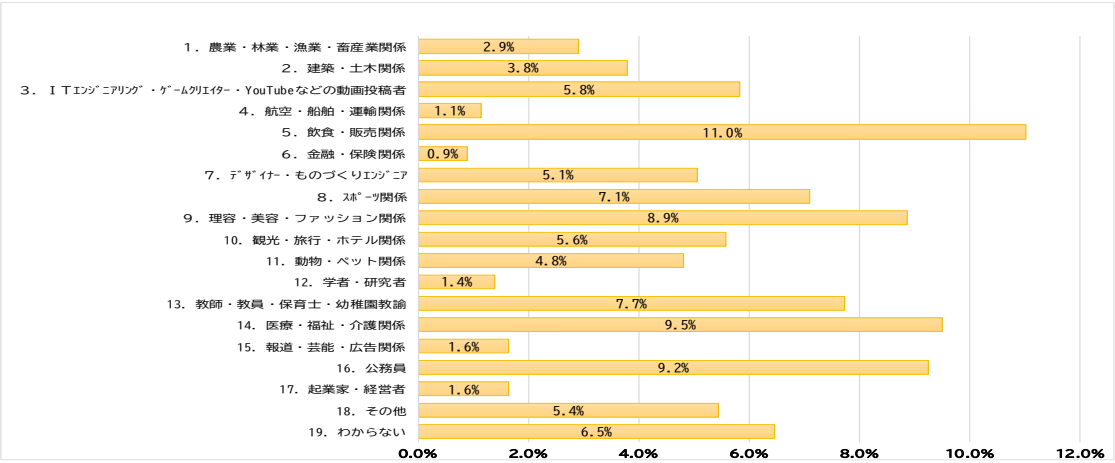


「医療・福祉・介護」、「公務員」、「理容・美容・ファッション」が、昨年に引き続き高くなっている。

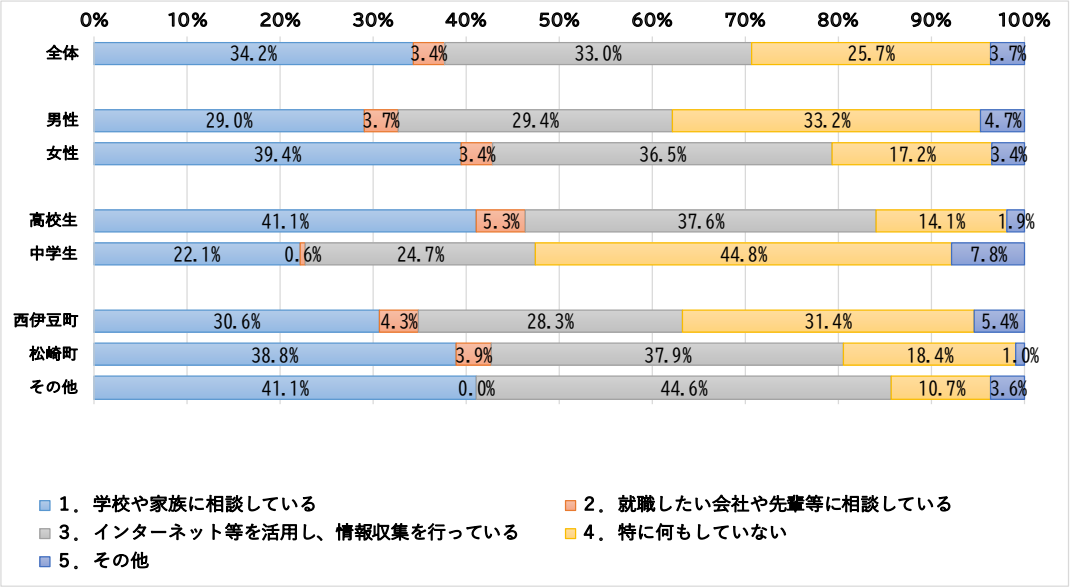
≪その他の意見≫

・仏教（お坊さん）	・芸術関係	・料理関係の仕事	・ブライダル
・カウンセラー	・外国と繋がれる仕事	・翻訳業	・事務系
・アニメ業、声優	・漫画家	・音楽関係	・栄養士
・消防士	・自衛隊	・海上保安官	・自動車整備士
・ラッパー	・コンサートプロモーター		

【参考：令和元年度調査結果】

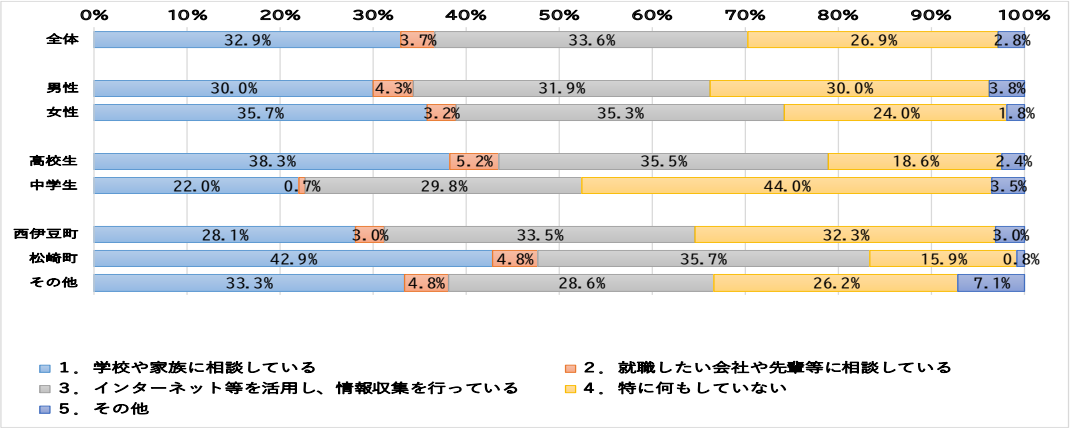


【問７】将来に向けて取り組んでいること（複数選択あり）



年齢的なこともあるが、取り組んでいるのは中学生より高校生の方が高くなっており、「学校や家族に相談」や「インターネットによる情報収集」など身近なツールが大半を占める。

≪その他の意見≫

・父のお経を聞いている
・いつも絵を描いている
・オープンキャンパスへの参加
・プランターで野菜を作っている
・美容などの勉強をしている
・実際にやっている方の意見を聞いている
・スポーツ関係の仕事をしたいので、その練習をしている
・家の仕事（父の仕事）の手伝い
・何にでもなれるように勉強を頑張っている
・漢検、英検などを受けている
・トレーニング、コミュニケーション
・英語を勉強しています
・求人票を見たり、合うものを探している

【参考：令和元年度調査結果】